章力不足注意「迷子ライフ」・・・友達がメールで細々送ってきたのがうざいのでそれをまと

・・・友達が厨二病でうざいのであいつが書いたのを貼る

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
厨二病＋文章力不足注意「迷子ライフ」・・・友達がメールで細々送ってきたのがうざいのでそれをまとめて晒す。

【Ｎコード】
Ｎ１７０２Ｍ

【作者名】
・・・友達が厨二病でうざいのであいつが書いたのを貼る

【あらすじ】
文章力無くて厨二病の友達が（うざいほど）頑張って送りつけてきたので転載。
バンドのボーカルの心境を勝手に想像（妄想）したらしい。

（前書き）

・・・元動画もあるけどクオリティの差が激しいです。
できれば偏見を持つ前に戻るか、元動画を先に・・・
←使わせてもらいました（友達が）←
ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｎｉｃｏｖｉｄｅｏ．ｊｐ／ｗａｔｃｈ／ｓｍ９６０４９７２
てかさ、神曲を汚しすぎ・・・ｏｒｚもうなんかすみません。あのバカ・・・。

注意：厨二病、文章下手、原作好き、これ面白そう、って人は見ない方が・・・

あのとき聞いたバンド、ストリートライブだったのにとても聞き入って、塾に遅刻したのを覚えてる。
でも、今まで覚えて入れたのはそんなことがあったからじゃない。
――そう、生きる希望をもらったから。

「１１番城山凛」
「はい」
わたしには何の才能もない。
そう気付いたのは中学校入ってすぐだった。
今まで何とかなってた勉強、今の順位は下から数えた方が早い。
スポーツは昔っから苦手で、今もインドア派。
絵もイマイチだし、人付き合いは一番の苦手だ。
それに今更、一生懸命なにかをやっても無理だ、急にやり始めてうまくなるなんて虫がよすぎる。
このテストの点数もかなり悪いはず。ほら、４２点。
いや――まだあった、でもいいや、これももう無理だよ。

その日の授業は終わり、今からは、塾でひっそりと気配を消すのが日課だ。
もちろん誰とも喋りたくない、だって、失望されるの分かってんだもん。絶対に、いつかは。
「凛さん、大丈夫？また悩んでるようだけど」
「はい、何でもありません」

嘘だ。そんなこと無い、助けて欲しい。
でも、口をついて出た言葉がそれだった。
そして、それ上誰とも会話せずに塾から帰った。

親とも話したくない、また失望した顔を見るだけだ。
その表情を隠さない父親、隠すのが下手な母親なんか見ていて余計心が痛い。
もう見たくもなかった、そんな表情。
だけど家出なんて出来ないから遠回りして帰るのが精一杯。
———そしてまた出会った。
いや、出会ったのではない、一方的に発見した、というのが正しいのであろうか。
そんなことはどうでもいい、早く、近づいてこの目でまた見たい、ストリートライブを行っているバンドのボーカル、いや、家出した姉を。

姉は自由な性格で、決して人に縛られず、決して人になつかず、気高い猫、という表現が一番正しい女性であった。
告白も三桁ほど受けたらしいが全て突っぱねたらしい。
授業はまともに受けないくせにテストの点数は高く、運動は何か凄かったらしい、ルールがあるとかで部活はやってないけど。
絵とか、作文とか、人と接する才能とかもあって、凄いスーパーヒーローだったらしい。
ただ、音痴で、本人はそのことが嫌で、わたしが中学校入学祝いしてたら急に
「音痴を治すために高校行かずに修行行ってくる」
と言い残し勝手に家を出て行った。そんな人だ。
お姉ちゃん！

そう叫びたかったけどぐっとこらえた。だって今はライブ中なんだもの。大声を出すのはマナー違反。
下手だけど、人を引きつける、そんな歌声。
あんなに自由な姉がひとつのことを必死に追いかけている。
かっこいい。それだけだった。
みんな無我夢中にやってる姉をかっこいいと思ってみている。
そんな声に惹かれて少しだがファンがいるようだった。
わたしもその中に紛れて姉を見ている。

そして、ライブが終わった後、姉に会いに行った。この前は塾で会いに行けなかったから。
「お姉ちゃん！」
「凛！また見に来てくれたんだね」
いっつもお姉ちゃんはわたしを見ていてくれた。
今もちゃんと見てくれた。対等に扱われてる気がしてうれしい。
だって、だって。
———いや、その話はよそう。
「もう二年も会ってないから心配したんだよ！」
「いいじゃん、携帯あるし」
「へ！？ばっぱっ番号は？」
「あんた持ってたっけ？」
「うん、買ってもらったの」
「じゃあね～赤外線しよ」
「いいよ～」
・・・
「あっ、もう時間無いや、じゃあね～」
あっさりと姉は去っていく。また会えるかも分かんないのに。

結局その日は親にしかられた、でもそれで終わった、心配してくれるわけがない、だって失敗作なんだもん。

でも、塾帰りにふらふらする癖がついてしまい、当てもなくその辺をふらふらして怒られる。
一応姉とはメールで連絡は取れたが、やっぱり顔が見たかったのだ。
でも、ライブ場所だけは絶対に教えてくれなかった。
「恥ずかしいから」なんて見え見えの嘘をついて。
でも、それ以上は聞かなかった。姉にも言いたくないことはあるのだろう。
その二つが日常になりつつあった頃。事件が起こった。

急にメールが来た。
別に姉は気まぐれだったからそんなに驚くことじゃない。
そこじゃない、驚いたのは。
わくわくしながら携帯を開いたら、件名に
「今日見に来る？」
と書いてあった。
とても驚いたけど、うれしかった。あの姉がライブに誘ってくれたのだから。
中身は、
「今日見に来る？」
との件名と全く同じの簡潔な文章と、大量の絵文字が入っていた。
———何をやってんだ、お姉ちゃん
真っ先に思ったのはそうゆう事だけど、でも、あの姉がライブの場所教えるとはめずらしい。
考えるより先に、地図で示された場所に行った。

ついたのはギリギリだった。もうすぐ開始らしい。
なぜこんなギリギリに呼んだのか分からなかったが、それよりも姉がわたしに場所を教えたことの方が気になっていた。
そして、ライブが始まる。
出てきたのは、顔を真っ赤にして、立ってるのがギリギリのような

姉。
「今日もありがと・・・」
最後まで言わずに、姉は倒れ込んだ。
今分かった、姉はそう言う性格なのだ。
風邪を引いてても誰にも頼らない。他に人に頼りたくないのだ。
だって・・・
いや、早く行ってあげなければ！
バンドのメンバーたちが駆け寄っていく中、わたしも舞台に飛び乗り、姉の元へと向かった。
姉はほとんど虫の呼吸であった。どうやらギリギリの状態らしい。
だが姉は、
「早くやろうよ・・・」
なんていっている。
「お姉ちゃん！無理しないで！」
「ハァ・・・いや、もうライブは始まったんだし。」
そういうつもりなのだったのかもしれない。無理してでも、やるつもりなのかもしれない。
「お客さんが集まってるんだし、やらなきゃ失礼じゃん！はぁ・・・はぁ・・・」
「もういい、お姉ちゃん。」
「いや、まだ・・・」
そういって顔をしかめる姉。
もう無理しないで。と小声で言って、
ワタシは前を向いてこういった。
「わたしが姉の代わりに歌います！」
あまりの急な出来事に、ついて行けないギャラリーたち。
商店街の中なのに、こんなに集まった人たち。
そのなかにざわめきが起こる。
前に一度、諦めたはずなのに・・・

また姉と比べられていたはずなのに・・・
また姉の分の期待を背負わされていたのに・・・
また、失望した顔を見るだけなのに・・・

でも。

「君、大丈夫？」
決まっている、「大丈夫、歌は一応うまいです」
一応どころじゃない、らしい。姉が私に言ってた。

そして、突如主役交代のライブが行われた。

終わってから、舞台裏で少し会話した。
「なんであのとき立ってきたの？」
「サビぐらい、歌いたかったもん」
といってほおを子供のように膨らませた。
「じゃあその後ぶっ倒れないでよ！」
「いーじゃん。あんたがあんな不安な顔してたらお姉ちゃん風邪なんか気にせず行っちゃうよ～」
でも、あの角度からは見えなかったよね！？顔。
「えっ、えっ？」
「うっそだよ～ん」
ボコッ、手にした氷枕で軽く殴る。
「痛いよ～、このおてんば～」
「うっさい！出てくからね！」
「あのさ」

「何？」
「うちのバンド、入らない？あの声、かなり評判でさ。一緒にデュエットでもする？」
強引だな、おい。
「え～と、うん！」
満面の笑みで返した。
これから始まるわたしのバンドとの物語。

（後書き）

ほんっと、見てくれてすみません。
汚してすみません。
ってかわざわざこんなことやる俺って・・・。
全てにすみません。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1702m/

厨二病＋文章力不足注意「迷子ライフ」・・・友達がメールで細々送ってきた

2010年10月10日00時38分発行